

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報について（送付）

このことについて、令和元年度（2019年度）病害虫発生予察注意報第4号を公表しましたので、送付します。

## 注 意 報

### 令和元年度（2019年度）病害虫発生予察注意報第4号

農作物名 ウメ、カキ、カンキツ、ナシ、モモ、スモモ等  
病害虫名 果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 3月中旬～7月
- 3 発生程度 平年比 多
- 4 注意報発表の根拠

チャバネアオカメムシの県内16地点における越冬成虫数は合計130頭（前年1頭、平年8.2頭）で平年比多であり、過去10年で最も多かった。また、捕獲地点数は12地点（前年1地点、平年5.2地点）で平年比多であり、過去10年で最も多かった（表1）。

- 5 今後の発生量予想

チャバネアオカメムシの越冬量は、その年の7月までの発生量の指標となる4～7月の予察灯誘殺数と正の相関が認められる（図1）。本年のチャバネアオカメムシの越冬成虫数及び捕獲地点数は平年比多であり、過去10年で最も多かったことから、本年7月までのチャバネアオカメムシの発生量は平年より多いと予想される。

- 6 防除上の注意事項

- （1）福岡管区気象台が2月27日に発表した九州北部地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より高い。越冬成虫が活動を始める時期が早まる可能性があるため、春先から園の飛来状況の把握に努める。
- （2）果樹カメムシ類は、局地的に飛来し、被害をもたらすことがあるので、定期的に園を見回り、早期発見と薬剤による初期防除を徹底する。
- （3）ここで示したデータには、近年発生量は被害が増加傾向にあるツヤアオカメムシの越冬量は含まれていないが、チャバネアオカメムシと同様の対策を行う。
- （4）チャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシの予察灯及びフェロモントラップの誘殺数データを病害虫防除所のホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/>) に3月以降随時掲載する。これらの情報を参考に防除要否や防除適期を判断する。

表1 チャバネアオカメムシの越冬量調査結果(越冬成虫数(頭/3m<sup>2</sup>)及び捕獲地点数)

調査年 調査地点	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	平年 (過去10年平均)
熊本市河内町①	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	9	
熊本市河内町②	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	
熊本市植木町	0	1	1	3	1	2	0	0	0	0	18	
宇城市三角町①	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
宇城市三角町②	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	
宇城市不知火町	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	
宇城市松橋町	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	
宇城市豊野町	0	1	0	1	1	1	0	0	3	0	1	
玉名市天水町	0	1	1	1	0	0	0	0	2	0	9	
山鹿市蒲生	1	2	0	2	1	5	1	1	3	1	22	
菊池市玉祥寺	1	0	0	2	0	2	0	0	2	0	1	
甲佐町西寒野	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
氷川町大野	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	7	
芦北町田浦	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	9	
天草市本渡町	0	1	1	1	0	5	0	0	4	0	17	
苓北町内田	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	27	
越冬成虫数合計	4	9	4	13	6	21	2	2	20	1	130	8.2
捕獲地点数	4	8	4	8	6	9	2	2	8	1	12	5.2

- 1 調査時期 令和2年(2020年)1月
- 2 調査地点 上記県内16か所の定点
- 3 調査方法 1地点3m<sup>2</sup>(1m<sup>2</sup>を3か所)分の落葉を採取し、落葉中の越冬成虫数を計数した。

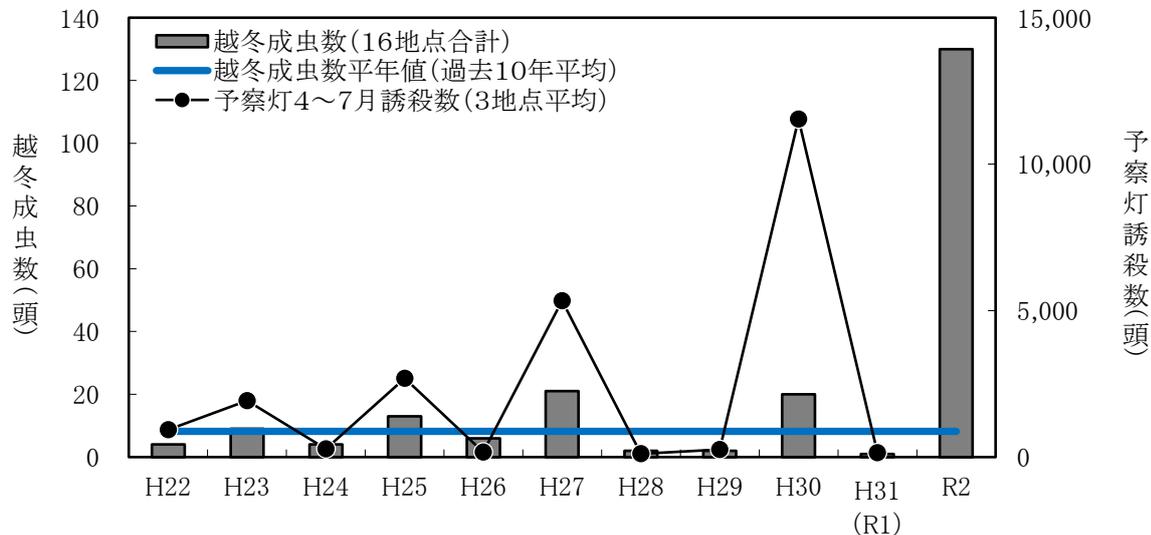


図1 チャバネアオカメムシの越冬成虫数と予察灯4～7月誘殺数の推移

- 1 「越冬成虫数」は、各3m<sup>2</sup>調査した16地点の合計頭数を示す(左縦軸)。
- 2 「予察灯4月～7月誘殺数」は、合志市栄、宇城市松橋、天草市本渡に設置した3台の予察灯の4月から7月までの誘殺数累計の平均値を示す(右縦軸)。

熊本県農業研究センター 生産環境研究所  
 病害虫研究室 予察指導係(病害虫防除所)  
 担当: 中村、斉藤 TEL: 096-248-6490